

漁海況月報

平成 16 年 9 月 1 日

No. 9

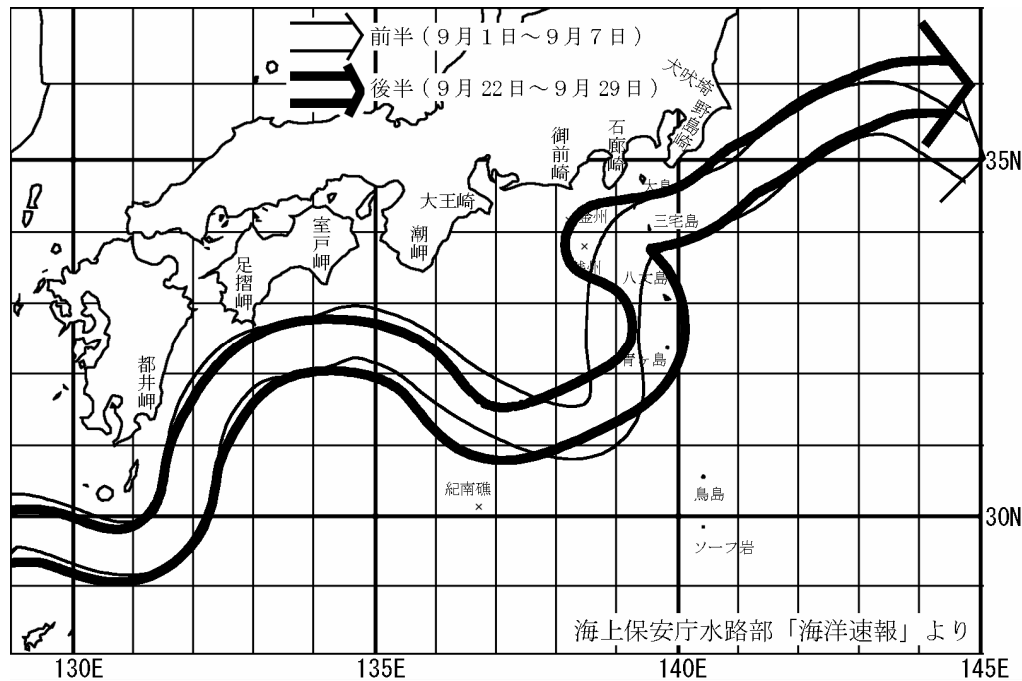
～9月30日

静岡県水産試験場

(電話 054-627-4815)

静岡県水産試験場伊豆分場

(電話 0558-22-0835)



【黒潮流路】

黒潮は、先月に引き続きA型で、石廊崎沖の北緯 34° 10' ~ 20' 付近まで北上したのち、東に向きを変え、神津島付近を通り房総半島に接岸して北東に流れていた。黒潮が石廊崎に接岸したため、駿河湾には暖水波及が継続した。9月下旬は、例年ならば定地水温が下がり始める時期であるが、本年の水温低下は少なく、8月中旬から9月上旬並の水温であった。

【県下沿岸域】

定地水温は、相模湾側では 22~25 台、駿河湾東部では 25~27 台、駿河湾西部では 24~26 台で経過した。伊東～下田は、上旬に平年を下回る水温を観測したが、その他の測点では平年を上回った。

【竿釣近海カツオ】

9月の県内主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海カツオの水揚量は46トンで前年同期の107%であった。魚価は263円/kgで、前年同期を若干下回った。

中型竿釣船の記録（QRY）及び御前崎市場での調査によれば、9月の漁況はおおむね以下のとおり推移した。

38° ~ 41° N、143° ~ 146° E で漁場が形成され、極小、小、チン、中、大カツオを漁獲した。静岡県近海では、主に沿岸竿釣り船が伊豆大島、神津島周辺から遠州灘沖にかけて操業し、体長 29 ~ 75cm のカツオを漁獲した。

竿釣近海カツオ水揚量 (県内主要5港)

期 間	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚量 / 隻 (トン)	平均単価 (円 / kg)
16年9月上旬	12	5	2.4	303
中旬	26	6	4.4	203
下旬	8	6	1.3	399
16年9月計	46	17	2.7	263
15年9月計	43	14	3.1	288
14年9月計	50	15	3.3	305

【まき網】

小川港では、マイワシは259.5トン水揚され、平年同期（過去5か年平均：95.6トン）の2.7倍と好調であった。カタクチイワシは水揚されなかった。

沼津港では、マイワシは277.1トン水揚され、平年同期（67.3トン）の4.1倍と好調であった。カタクチイワシは水揚されなかった。

静浦港では、マイワシは4.2トン水揚され、平年同期（2.0トン）の2.1倍と好調であった。カタクチイワシは192.0トン水揚され、平年同期（65.0トン）の3.0倍と好調であった。

伊東港では、マイワシは0.1トン水揚された。カタクチイワシは水揚されなかった。

【シラス船曳網】

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾で235kg、遠州灘で216kgだった。主要6港平均では223kgと前

2004年9月

定地水温の旬平均値 ()

(下段は偏差)

期 間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上 旬	24.5	24.2	24.1	26.8	26.3	26.5	25.8
	0.3	0.3	0.5	0.9	0.7	1.0	0.3
中 旬	24.5	24.8	25.0	26.5	26.1	26.4	25.8
	0.3	0.8	0.8	1.4	1.1	2.0	1.0
下 旬	23.9	24.6	24.9	26.4	25.7	26.2	25.5
	0.8	1.1	1.5	2.2	2.1	2.8	1.9
月平均	24.3	24.5	24.7	26.6	26.1	26.4	25.7
	0.3	0.6	0.6	1.5	1.3	1.9	1.1

年同期(298kg)の75%、平年同期(過去5か年平均:379kg)の59%であった。9月の総水揚量は514.0トンと、前年同期(867.5トン)の59%、平年同期(940.8トン)の55%に当り、低調であった。平均単価は1,165円/kgと前月より若干下がったものの、平年同期(655円/kg)を大きく上回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁港	水揚量(トン)	日数	延続数	平均漁獲量(kg/統・日)	平均単価(円/kg)
新居	30.2	15	209	145	1,094
舞阪	126.4	13	579	218	1,105
福田	86.0	14	375	229	1,070
御前崎	55.0	18	216	255	1,168
吉田	133.5	19	492	271	1,153
静岡	82.9	18	429	193	1,399
平成16年9月計	514.0	-	2,300	(平均)223	(平均)1,165
平成15年9月計	867.5	-	2,907	298	738
平成14年9月計	674.4	-	2,491	271	1,048

[サバ棒受網]

小川港に水揚げされたサバ類は1,328トンで、すべてがゴマサバであった。水揚げされたゴマサバは尾叉長25cm以下の2004年級群が主体で、1隻当りの漁獲量も33トンと昨年同期と比べ約1.5倍となり好漁が継続した。1kg当たりの平均単価は魚体が小さいことや漁獲量が多いことから33円と安かった。

小川港 サバ類(棒受網漁業)水揚量

期間	水揚量(トン)	日数	延隻数	1隻当り(トン)	漁場
平成16年 上旬	516	4	16	32.3	利島、新島、高瀬
9月 中旬	412	3	12	34.3	利島、新島、高瀬
下旬	400	3	12	33.3	三宅、新島、高瀬
計	1,328	10	40	33.2	- - - - -
平成15年9月	792	7	36	22.0	銭洲
平成14年9月	172	8	26	6.6	三宅、新島、高瀬

[定置網]

平成16年9月、伊豆半島東岸大型定置網8か統(伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)における水揚量は279トンであった。1漁場当たり水揚量34.9トンは、前年33.1トンの1.1倍、平年値(昭和57~平成15年平均値)49.7トンの70%であった。

魚種別にみると、サバ類133トン(前年の1.9倍、平年の93%) マアジ33.2トン(前年の1.1倍、平年の1.2倍) さばっこ25.1トン(前年は水揚量なし、平年の1.2倍) シイラ20.9トン(前年の3.6倍、平年の5.2倍) マイワシ11.1トン(前年の6.7倍、平年の71%)の順に多かった。

サバ類は赤石、古網及び北川を中心としてゴマサバ主体で入網し、ゴマサバの尾叉長の中心は21~25cm及び30~33cmであった。サバ類は5月以降に水揚量が毎月100トン以上となり、5~9月の合計は水揚量の多かった昨年同期(1,060トン)を上回る1,107トンとなった。マアジは谷津及び赤沢を中心に入網し、尾叉長のモードは14~16cmであった。さばっこは赤石及び川奈を中心にゴマサバ主体で入網し、尾叉長の中心は20~23cmであった。

シイラは富戸及び北川を中心に入網し、昭和57年以降で最も水揚量が多く、尾叉長の範囲は42~112cmであった。マイワシは古網及び川奈を中心に入網し、両漁場を合わせるとマイワシ全漁獲量の87%を占め、被鱗体長のモードは16.5~17.5cmであった。

漁場別水揚量は、サバ類の漁獲が多かった赤石(67.2トン)、北川(44.7トン)、古網(43.0トン)の順であった。

[調査船の動向]

富士丸

9月1~24日 東沖ピンナガ調査(24日間)

駿河丸

9月2~3日 浜名湖沖にてトラフグ試験操業(2日間)

9月6日 駿河湾内にてCTDテスト(1日間)

9月13~14日 駿河湾内にて地先定線観測及びサクラエビIKMT調査(2日間)

9月14~15日 駿河湾内にて静大深層水調査(2日間)

9月16~17日 地先定線観測(遠州灘・伊豆)(2日間)

9月21日 ベンドック工事のため清港ドックへ回航(2日間)